

# グローバル人材鍛える

## 国際教養大、就職実績で脚光

秋田市にある公立大学、国際教養大学が世界で活躍できるグローバル人材を求める有力企業から注目されている。2004年の開学以来、少人数教室で全講義を英語で実施するなど独自の教育システムを導入。卒業生の就職率はほぼ100%で、就職先の多くを東証1部上場企業が占める。地方からグローバル人材の育成に挑む国際教養大の教育現場を追った。

「この課題についてあなたはどうか考えますか」ドイツ人の教員が英語で学生に呼びかけながら小さな教室を回る。この講義は地球社会学の一場面。教室にいる学生は40人ほどで、そのうち10人は欧米などからの留学生。挙手した1人の学生が身ぶり手ぶりを交えながら、英語で自分の考えを力強く語っていく。

### 大教室とは無縁

この講義のスタイルは国際教養大でごく一般的なもののだが、学生数は比較的少ない。1科目当たりの平均登録学生数は17・9人で、「教員と学生が何度も直接対話し、リベラルアーツ(教養教育)の学びを深めていく」とマーク・ウィリアムズ副学長は説明する。

## 英語漬けの講義 留学も義務付け

ムズ副学長は説明する。学生が英語漬けの講義に参加できるようにするために、様々な工夫をしている。新生には「英語で学ぶための英語」教育(英語集中プログラム)が課され、英語能力テスト「TOEFL」で500点以上をとるまで一般教養など次の課程に進めない。1年間、留学生を交えた学内の寮暮らしも義務付けられる。

### 国際教養大学の卒業生の主な就職実績 (2007年度から11年度の合計)

三菱マテリアル	16
三菱電機	10
三井住友銀行	9
旭化成	8
Meiji Seika	8
ファルマ	8
川崎重工業	7
住友金属鉱山	6
エイチ・アイ・エス	6
三菱重工業	5
DOWAホールディングス	5
久光製薬	5
日立製作所	4
花王	4
新日鉄住金	3
日本郵船	3

だ。11月末時点の提携大学は40カ国・地域の140校にのぼる。米オレゴン州立大学に留学した4年生の多田晶彦さんは

「米国は人種のるつぼ。留学して『人は違って当たり前』と考えるようになった」と話す。それでも、全講義を英語で学ぶのは楽ではない。それを象徴するのは24時間開く図書館。木の風合いを生かしたモダンな造りだが、「試験前に限らず必死に机に向かう学生が少なくない」(勝又美智雄・図書館長)。

4年で卒業できる学生はほぼ半数という厳しさが猛烈に駆り立てる。「全講義を英語で行うことだけでなく、卒業の厳しさも企業から評価されている」と三栗谷俊明・キャリア開発センター長はみる。現在の学部学生数は800人余りで、これまで送り出した卒業生(進学を除く)は526人。08年度と11年度を除き就職率は100%。就職先の多くは三菱マテリアル、新日鉄住金など東証1部上場企業だ。

当初から企業に高く評価されていたわけではなかった。07年度に学内で就職説明会を開いたのは4社。だが、東京外国語大学学

「意見・情報は電子メール daigaku@nikkei.co.jpへお寄せください。」

長を経て開学当初から国際教養大の学長を務める中嶋雄雄氏ら教職員のほか、設立母体となった秋田県関係者が粘り強く教育の特徴をアピールした結果、11年度は140社に増えた。

その背景には、教職員の人件雇用システムにも厳しさを取り入れていることも見逃せない。副学長をはじめ教職員は3年の任期制。給与は評価に基づく年俸制を導入している。こうした厳しさが教職員による外部への積極的なアピールにつながっている。

学生集めは順調だ。4月入学の一般選抜試験の出願倍率は毎年10倍程度。12年4月入学の一般選抜は合格者206人に對し1965人の出願者を集めた。大手予備校による入試難易度は東京大学に迫る。国際教養大は学生不足で廃校となったミネソタ州立大学機構秋田校の施設を引き継いで開学した。少子化でも運営については大学に活路がある実例ともいえる。

課題もある。地元には「全国から学生が集まるが、就職などで地域に定着しない」との声が聞かれる。また、12年度に授業料を約30%増の69万6000円に引き上げた。



英語の教科書を使い、英語で授業を受ける国際教養大の学生(秋田市)



国際教養大学の学長に国内大学の課題や改革のポイントを聞いた。——日本の大学教育をどうみているか。

「ベルリンの壁の崩壊以降、世界のポスターレス化が急速に進んだのに、日本の大学教育は国際化に大きく後れをとった。例えば、国立公立大学は2004年の

### 中嶋学長に聞く改革のポイント 国際的な単位交換も必要

法人化まで外国人が教授や学部長になることができず、「知の鎖国」ともいえる状況が招いた。教授会のもう一つ重要な課題として思い切った改革が進まなかったのも大きな問題だ。

東京大学が秋入学構想を打ち出すなど、大学改革が進み始めたのは。

「世界から良い人材を集められないことへの危機感の表れだ。ただ、秋入学にするだけでは意味がない。大学のグローバル化には留学を受け入れただけではなく、国際的に単位交換ができる

カリキュラムの改革が求められる。さらに、英語で講義できない教授には辞めてもらうようなどころまで踏み込めるかが問われる」

——日本では大学が多すぎるの指摘も出ている。

「少子化が進む一方、大学の数は増えている。いいかげんな大学は淘汰されるべきだ。そのうえで、リベラルアーツなどを教えるトップ大学、地域に貢献する大学、大学院大学のような研究センターの3つに分けが進めばいい」

(聞き手は小田原芳樹)

さらなる教育の質向上をめざすためというが、地元の声に添って資金を地域貢献に振り向けようという意思も見て取れる。教育に対する高い評価をどう地元の理解にもつなげるかが問われる。

新井ゼミではインターネットマーケティングや消費者行動などを研究し、企業と共同で市場調査も実施している。ベルメゾンでは今年初め、若手女性社員の「会社訪問などで靴擦れに悩まされた」という声を契機に就活用パンプスの開発プロジェクトが発足。ゼミナ



上智大学の新井ゼミとベルメゾンの千趣会が共同開発した就活用パンプス

1日に数社の説明会や面接を掛け持ちすることも珍しくない就職活動。ヒールの靴を履く女性は足の痛みを悩まされることも多い。そんな女性向けに、上智大学経済学部の新井範子教授のゼミと通信販売大手の千趣会が「就活にも負けない快適パンプス」を共同開発した。同社が運営するベルメゾンネットで11月から販売している。

新井ゼミではインターネットマーケティングや消費者行動などを研究し、企業と共同で市場調査も実施している。ベルメゾンでは今年初め、若手女性社員の「会社訪問などで靴擦れに悩まされた」という声を契機に就活用パンプスの開発プロジェクトが発足。ゼミナ

新井教授は「就活はつらく大変なことでも多く、このパンプスですらでも軽減できればうれしい」と話す。ゼミ生にとっても、身近な市場を学ぶ貴重な機会になったという。

「就活にも負けない快適パンプス——上智大 学生の声生かし足の負担軽減

などで親交のあった新井教授に協力を求めた。新井ゼミの4年生が中心となり、6月から就活を終えた女子学生への聞き取りやアンケート調査を実施。靴擦れなどに関する悩みのほか、「業界ごとに一般的なヒールの高さが異なる。金融系は低め、外資系は高め」といった意外な意見も集まった。

キャンパス発 この一品

富士通は横浜国立大学と組み、大学向けの学習支援システムを開発した。専用サイトでテストやレポートの作成、提出などを一元管理し、課題の提出状況や点数などをデータベース化。学生の特徴を分析し、個別指導や講義内容の改善に活用できるようにする。学力向上が課題の小中学校や高校向けのシステム

大学向けの学習支援システム